（別紙4）　　平成　26　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070702081		
法人名	株式会社　グローバルケア		
事業所名	グループホーム　グローバルケア		
所在地	〒807-0873　福岡県北九州市八幡西区藤原3丁目10－15　℡ 093-691-3021		
自己評価作成日	平成26年11月20日	評価結果確定日	平成26年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　北九州シーダブル協会
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号　℡ 093-582-0294
訪問調査日	平成　26年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

①学習療法（東北大学　川島隆太監修　くもん学習療法）　週5日1回15分～20分
②2ヶ月に1回程度外部レクレーションに出かける
③自立支援・食事の準備や片付け・洗濯物たたみ
④小倉北区在住のピアニスト・水上　裕子氏による音楽セラピー（認知症介護カリキュラム）実施（H24年は、毎月1回開催）
⑤空いた時間に「軽体操」や「言葉遊び」を実施している。
⑥2ヶ月に1回「赤ちゃんセラピー」開催（赤ちゃんによる癒しの提供）

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設12年目を迎えた「「グローバルケア」 」は、閑静な住宅街に立地し、1ユニットのグループホームである。この度、今まで慣れ親しんできたホームが同じ場所に全面改装され、明るい外観と安全面には十分な配慮がなされ、快適で機能的な居住環境が整備されている。新しい生活環境のもと、今までホームが取り組んできた、家庭的な手厚い介護で心身機能の活性化を図り、医療連携や介護職員と看護師の協力体制が、積極的に実践されている。また、法人グループ間での協力や連携体制を推進して、音楽療法や幅広い外出支援に加え、利用者の笑顔の絶えない「赤ちゃん先生」等、新しい「癒し」の取り組みも行なわれている。利用者の自立に向けた支援の積み重ねは、利用者や家族の安心と信頼に結び付き、利用者の重度化に向けた今後の期待が持てる「グローバルケア」である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25.26.27）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20.40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38.39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32.33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	夜勤から日勤への申送り(朝礼)時に、全員で唱和し、実践している。	ホームが目指す介護サービスのあり方を示した、独自の理念を掲示し、職員は、毎日の申し送り時に理念を唱和し、意義を理解して利用者一人ひとりの思いや意向に配慮した、介護サービスの提供に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の散歩や地域の催し物(盆踊り･敬老会･バザーなど)に、積極的に参加している。	利用者と職員は、地域の一員として、地域の盆踊りや敬老会、バザー等に参加し、親しくなった地域の方と、散歩の時に挨拶を交わし立ち話をしている。また、法人内で行われるコンサートに参加したり、ホームに地域のボランティアや、赤ちゃん先生(子どもやおかあさんとの触れ合い)の来訪等が始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩の際に挨拶を交わす程度で十分とはいえない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H２５年度は、開催できていない。H２６年は１０月開催１２月に(１３日)開催予定です。	今年度前半は新築移転の関係で、会議が開催出来ていない。１０月と１２月に会議を開催し、今後は、２ヶ月毎の会議を継続して開催を実施し、ホーム運営に反映出来るように取り組むことを検討している。	運営推進会議は、地域との交流を活発にし、行政と連携を図り、ホームの運営を繁栄させるために開催することを管理者が自覚し、積極的に会議を開催し参加者を募り、年6回開催することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居の空き状況等を、地域包括センター担当者に連絡し、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者は、行政窓口に疑問点や困難事例、事故報告を相談し、情報を共有している。運営推進会議に、地域包括支援センター職員が参加し、ホームの実情を理解した上でアドバイスを貰い、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間を除き施錠していない。拘束をしない介助は実践的に実施しているが、職員の入れ替わりもあった為、職員全員が「具体的な禁止行為」を十分理解できるよう周知徹底する。	毎日の申し送り時に理念を唱和し、身体拘束や虐待防止について話し合い、毎日の介護の中で確認しながら職員一人ひとりが、拘束の弊害を理解し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、玄関は日中は開放し、夜間のみの施錠になっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルは完備して職員の行為が虐待に結びつかない様に日々防止に努めているが具体的には、その時その場で説明している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員については、研修等十分できているとはいえない。	管理者は、日常生活自立支援事業や成年後見制度についてある程度の理解はあるが、研修に参加出来ていない職員が多いので、資料やパンフレットを用意し、制度について勉強会を開催し、職員全員が理解できるように取り組むことを検討している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	十分な説明を行い理解･納得を図っている。内容変更、改訂等は、その都度説明し同意書を取り付けている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームでの催し物（コンサート･もりフォーラム･赤ちゃん先生等）の際に、参加の呼びかけを行い、意見や要望を集約する機会を設け運営に反映させている。	職員は利用者と日頃の会話の中から、思いや希望を聴き取り、家族面会や行事参加の時に、職員が家族と話し合い、利用者の健康状態や生活状況について、家族から意見や要望を出してもらい、ホーム運営や利用者の介護計画作成に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の主任会議を行っているが、職員の意見や提案が、全て集約されているとは言いがたい。	管理者は、職員の意見や要望を毎日の申し送りや、業務の中で聴き取り、解決に向けて取り組んでいる。また、毎月の主任会議の中で、職員の意見や要望を報告し、出来ることから速やかに実行し、職員の意欲に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	H22年9月「キャリアパス要件」等の届出も行い、介護職員処遇改善加算も活用し、条件の整備に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集･採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても,その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	Ｈ２５年度から職員採用面接に当たっては、筆記試験（常識問題）･適性検査を実施している。また、既存の職員については、作業基本マニュアルを作成し職員研修時に項目別にロールプレイングを実施している。	職員の採用は、筆記試験と適性検査を行い、やる気のある職員を採用している。採用後は、新人研修とスキルアップ研修に取り組み、職員の介護技術と意識の高揚を目指している。また、作業マニュアルを作成し、職員一人ひとりが、同じレベルの介護が出来るように指導している。また、職員の特技を活かした役割分担で、楽しく働ける職場環境を整えている。	
14	１０	○人権教育･啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育･啓発活動への取り組みは、十分でない。	利用者の人権を尊重するケアについて、職員間で話し合う機会を設け、利用者が安心して暮らせるホームを目指し、介護のあり方を検討しているが、十分な取り組みとは言えないので今後の課題として検討している。	利用者が安心して、穏やかにホームで暮らせるために、外部、内部の研修に職員が交代で参加し、利用者の尊厳について学び、人権教育、啓発活動に取り組んでいくことを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	作業基本マニュアルを作成し職員研修時に項目別にロールプレイングを実施している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十分な取り組みは出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーが第一段階で関係づくりを行い、月1回以上主任とのケアプラン会議を実施してすり合わせを行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネージャーが第一段階で関係づくりを行い、月1回以上主任とのケアプラン会議を実施してすり合わせを行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用も含めた対応は行っていない。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	申送り（朝礼）時に唱和する、「ホーム信条」にもその項目を取り入れ、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を築くべく、方法を模索中です。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	１１	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援に努めている。	利用者が長年地域で築いてきた馴染みの関係や、地域社会との関わりが、ホーム入居で途切れてしまわないように、友人、知人、近所の方等の面会時には、ゆっくりと話が出来る場所や、お茶等を提供して、何時でも面会に来てもらえるように取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援要請があれば、最大限協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	１２	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネージャーが第一段階で関係づくりを行い、月1回以上主任とのケアプラン会議を実施してすり合わせを行っている。	職員は利用者との人間関係をつくり、何でも話し合える関係の仲で、利用者からの思いや意向、心配事等を聴き取り、家族の面会時に報告し、家族から意見や要望を聴き取り、利用者の介護計画作成やホーム運営に反映出来るように取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーが第一段階で関係づくりを行い、月1回以上主任とのケアプラン会議を実施してすり合わせを行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	他のサービス利用も含めた対応は行っていない。		
28	１３	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申送り（朝礼）時に唱和する、「ホーム信条」にもその項目を取り入れ、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は利用者や家族の意見や要望を聴き取り、ケアマネージャーは職員と相談しながら、利用者にとって最善の介護計画を3ヶ月毎に作成している。また、利用者の重度化や状態変化に合わせ、家族や主治医と相談し、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	家族との関係を築くべく、方法を模索中です。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援に努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援に努めている。		
32	１４	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	相談や支援要請があれば、最大限協力している。	利用者と家族の希望を優先し、馴染みのかかりつけ医の受診支援に取り組んでいる。受診は職員が同行し、利用者の情報を主治医に提供して受診結果を家族に報告し、医療情報を家族と共有している。また、月２回の往診をホームドクターにお願いし、利用者の健康管理は充実している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に２回程度の看護師勤務を基本に、携帯電話利用で支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、病院、ホーム（事務長･ケアマネージャー）で、対応している。		
35	１５	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	十分な取り組みは、出来ていない。	重度化や終末期に向けた方針を家族と話し合い、ホームで出来る支援と出来ない支援について理解して貰っている。また、利用者の重度化に合わせ、段階的に家族と話し合い、主治医も交えて今後の方針を確認し、利用者が安心して、出来るだけ継続して生活出来るように取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は出来ていない。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練は年2回実施しているが、地震や水害などの訓練は、実施できていない。	防災訓練を年2回開催し、消火設備の点検と合わせて実施し、通報装置や消火器の使い方を学び、避難場所に利用者を安全に誘導出来るように取り組んでいる。ホーム全体の防火意識も高く、火を出さない注意事項をマニュアル化し安全対策に取り組んでいる。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分注意を払い対応している。	職員は利用者のプライバシーの確保を目指し、利用者に、耳元で話しかけ、トイレや入浴誘導の際には特に注意し、利用者のプライドや、羞恥心に配慮した介護の実践に取り組んでいる。また、利用者の個人記録は、鍵を掛けてロッカーで保管し、職員の守秘義務についても、職員一人ひとりが自覚して取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	主任を中心に働きかけしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分希望にそっているとは言えない部分もあると思うが、支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容･美容の希望など本人の意思を尊重し訪問理美容で支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	認知症の進行により食材準備･盛り付け･後片付け等、できなくなった。	法人厨房からの配食サービスを盛り付けし、利用者の重度化で一緒に手伝うことが困難ではあるが、嗜好を聴きながら献立を作成して貰い、楽しい雰囲気のなかで食べる食事は、利用者の健康の源になっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の状態に合わせた支援をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝･夕食後は、夜勤者1名で十分ではないが、個別の状態に合わせた口腔ケアをしている。		
45	１９	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケアマネージャー･主任･職員で支援している。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、羞恥心やプライドに配慮し、声かけや、さりげない誘導で失敗の少ない排泄の支援に取り組んでいる。また、オムツ使用の軽減にも取り組み、少しずつ成果が表れている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の状態に合わせた予防をしている。排便スケールの把握で、予防出来ていると思う。		
47	２０	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本月･水･金曜日の入浴日だが、時間帯などは、出来る限り本人の希望に応じている。また、他の曜日の入浴も出来る限り対応している。	入浴は、週3日（月、水、金）を基本としているが、利用者の希望を出来るだけ優先し、時間等変更して楽しい入浴の支援に取り組んでいる。また、入浴を拒む利用者には、職員が交代でタイミングを見て声かけし、無理強いのない支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の状態に合わせた支援をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1ヶ月に2回の往診を基本に服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主任会議、ホーム会議で検討し支援している。		
51	２１	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	十分とは言えないが、極力支援している。	気候の良い日を選んで、周辺の散歩や買い物に出掛け、地域の行事に参加したり、買い物、外食、花見やドライブに出掛け、利用者の気分転換を図っている。利用者の重度化が進み、以前より外出の回数は減っているが、車椅子の利用者も外出が出来るように、法人施設で行われるコンサート等に出掛けている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	要望･希望に応じて支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望･希望に応じて支援している。		
54	２２	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	Ｈ２５年８月に全面改装終了改善された。	全面改装して新しいホームとして、バリアフリーを設置し、リビングルームの温度や湿度、音、照明、換気に注意し、清潔で明るい室内で、利用者同士が談笑し、笑顔に包まれたリビングルームは、居心地の良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	十分とは言えないが、極力工夫している。		
56	２３	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	要望･希望に応じて工夫している。	利用者が長年使い慣れた箪笥や机、仏壇や時計、生活用品等を持ち込んで、自宅と違和感のないように設置し、利用者が安心して、穏やかに暮らせる居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分とは言えないが、極力工夫している。		